城東区

城東区マスコットキャラクター
「コスモちゃん」

ふれあいマップ

1 城東区複合施設（じょうとうくふくごうしせつ）

所在地 中央3丁目5番45号
地図座標 E-6

平成28(2016)年1月に竣工し、同年3月に区役所・保健福祉センター、図書館が、同年4月に区民センター、老人福祉センターがオープンしました。

都市景観資源

2 城東区マスコットキャラクター「コスモちゃん」

所在地 中央3丁目5番
地図座標 E-6

コスモちゃんです。仲良くしてね!

平成25(2013)年4月に城東区制70周年を迎えるにあたり、区の魅力を発信し、誰からも親しまれる区の顔として、また区の活気につながるようなマスコットキャラクターを募集しました。

多数の応募作品の中から、区民の皆さまも参加された投票の結果、「コスモちゃん」が誕生しました。

頭と胸には、区の花「コスモス」と「モクレン」をかたどり、服の青は区内を流れる河川をイメージし、城東区の魅力をてんこ盛りに表現しています。

コスモちゃんは、城東区広報誌「ふれあい城東」や区ホームページ、区内の各種イベントなどで活躍しますので、皆さまの応援をお願いします。

区役所北側の蒲生公園花壇内に、城東区マスコットキャラクターコスモちゃんを紹介した案内板があります。お散歩がてらに、ぜひ見に来てください!

城東区の花

平成2(1990)年の「国際花と緑の博覧会」に向け、末永く区民の皆さまに親しまれ愛される「区の花」を定めようと、区内全校の小学生を始め広く募集を行ったところ、16,031通の応募がありました。その結果、昭和63(1988)年10月29日、ともに最多応募数により「モクレン」「コスモス」が区の花として制定されました。

編集・発行／大阪市城東区役所（令和6年3月）

撮影協力／大前 健一、岡島 幸生、木村 峰晴、下原 一宏、鳥越 光雄、中辻 良一、中村 敏郎、真島 良平

このマークが目印

わがまち自慢の景観

都市景観資源とは?

景観的に優れた、新しい建物や歴史的建造物、橋や樹木等はいずれも、地域の景観を特徴づける重要な役割を担っています。大阪市都市景観委員会の審議を経て、城東区では21件の都市景観資源が登録されています。

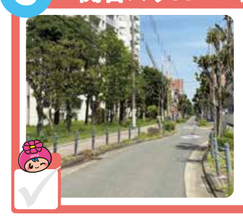
城東区の情報

総人口	167,386人	面積	8.38㎢
世帯数	84,397世帯	人口密度	19,975人/㎢

(人口・世帯数は令和6年2月1日現在推計)

3 関目スラローム道路（せきめ）

所在地 古市2～3丁目（どうえ）
地図座標 H-3

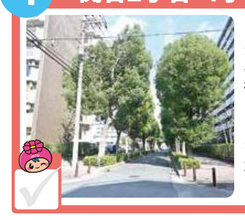


平成2(1990)年に鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会」へのアクセス道路の1つとして整備され、大阪市ではじめて曲線を主体としたスラローム型線形(蛇行型)が採用されました。交差点は赤系の色でイメージハンプを設け、自動車交通へのスピード抑制もうながしています。また、歩道を拡幅し、緑地帯を設けて快適な歩行者空間が確保されており、沿道の大阪信愛学院の校舎やタイサンボクの街路樹と相まって独創的な景観が形成されています。

都市景観資源

4 関目2丁目・4丁目の楠並木（せきめ ちょうめ くすのきなみき）

所在地 関目2丁目8・9番、関目4丁目2・10番
地図座標 G-4



きれいに手入れされた緑やしの並木道だね

関目2丁目、4丁目の道路にある楠並木。100メートル強の「クスノキ並木」で、高さ約10メートル、枝振りも立派で手入れもよく行き届いた「癒しの空間」となっています。真夏の昼下がりや軽やかなそよ風に触れる事のできる、貴重な緑陰空間です。

都市景観資源

5 大阪大国技館跡（おおさかだいこくぎかんあと）

所在地 古市2丁目1番
地図座標 H-4

大阪大国技館は、現在の古市2丁目の中重橋北東のリビエール関目付近に敷地面積6,000坪、建築面積約3,000坪、鉄筋コンクリート4階建ドーム式、収容人員25,000人の国内屈指の屋内スポーツ施設として昭和12(1937)年に竣工し、大国技館北側には相撲茶屋が建ち並んでいました。

昭和12(1937)年6月9日のこけら落としの大阪準本場所では、連日「満員御礼」の垂れ幕が下がり、梅田駅と難波駅から臨時バスが運行されたそうです。

しかし、太平洋戦争の勃発で4年7回の準本場所を開催しただけで休館し、戦時中は倉庫に転用、戦後間もなく解体され、現在は往事を窺えるものは何も残っていません。

6 菫之荘土地区画整理事業完成の記念碑（すみれのしょうとちくかくせいりじぎょうかんせいのきねんひ）

所在地 古市2丁目6番
地図座標 I-4

昭和2(1927)年11月、菫之荘土地区画整理組合が結成され、昭和4(1929)年3月に149.82ヘクタールを対象に市街地造成に着手し、10年の歳月を費やし昭和14(1939)年に完成、住宅、工場用地、公園、道路、上下水道が整備されました。この事業を顕彰して、記念碑が古市中公園の一画に建てられました。

7 大阪信愛学院（おおさかしんあいがくいん）

所在地 古市2丁目7番30号
地図座標 I-3

学院の歴史は明治17(1884)年に川口居留地に開校したことに始まります。現在地の城東区古市(当時は東成区千林町)に移転した時に建設されたのが本館で、今でも認定こども園から大学まで続く同学院の中で、大学学舎の一部として使用されています(開設:昭和7年[1932]。)

また、聖堂は、第25回(2005年)に大阪まちなみ賞(大阪都市景観建築賞)大阪市長賞を受賞しており、街路の角地を生かして聖堂の祭壇を配置し、外壁をセットバックさせて街路と一体になった緑地と水盤を設け、周辺環境への積極的な配慮を行っています。

都市景観資源

8 城北川日新製糖今福工場の艀（しろきたがわにっしんせいとういまふくこうじょうのはしけ）

所在地 今福西6丁目8番
地図座標 G-6

日新製糖今福工場は、昭和27(1952)年に新光製糖の今福工場として建設されましたが、平成25(2013)年の日新製糖との経営統合により現名称に変更になりました。精製糖、氷砂糖、液糖の製造販売等を業種とする会社で、かつて"水の都"といわれた大阪において、地の利を活かしてCO₂排出量の少ない、艀(はしけ)輸送を操業開始時より続けています。

都市景観資源

9 須佐之男尊神社（関目神社）（すさのおみことじんじゃ せきめじんじゃ）

所在地 成育5丁目15番20号
地図座標 D-2

須佐之男尊(すさのおのみこと)を祭神とし、現在は関目神社と呼ばれています。

創建年代は不明ですが、豊臣秀吉が大坂城築城の際、この地が大坂の鬼門にあたるということから鬼門鎮護の神として毘沙門天王(びしゃもんてんのう)を勧請し、小祠を建立したのが起源といわれています。

社殿は正徳年間(1711～1716年)の台風により罹災し、明治18(1885)年の大水害により流出しましたが、明治21(1888)年に復興しました。現在の神殿は、昭和52(1977)年10月に建て直されたものです。

都市景観資源

10 関目発祥之地の碑（せきめはっしょうのちひ）

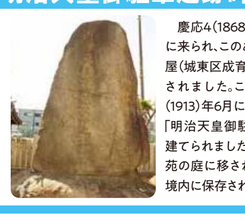
所在地 成育5丁目15番20号
地図座標 D-2

関目神社の境内に、この碑があります。関目という地名は、古くは榎並荘の時代からあったもので、この地に見張所(目で見る関所)があったことから起ったといわれています。

この地は、豊臣秀吉が大坂城の防備にとって重要と考え、後に京街道の一部となる関目から森小路の間10余町(1キロメートル余り)の道を俗に「七曲がり」といわれる屈折したものにし、敵兵の進軍の様子を眺めて、その軍容や兵数を察知できるようにしたと伝わっています。

11 明治天皇御駐輦之跡碑（めいじてんのうごちゅうれんのあとひ）

所在地 成育5丁目15番20号
地図座標 D-2



名所巡りを楽しもう!

慶応4(1868)年、明治天皇が古市に来られ、このあたりにあった西井茶屋(城東区成育5丁目22付近)で休憩されました。これを記念して大正2(1913)年6月に桑山良の撰文による「明治天皇御駐輦之跡碑」が当地に建てられました。その後、石碑は粋交苑の庭に移され、現在は関目神社の境内に保存されています。

12 榎並猿楽発祥の地 榎並城跡伝承地の碑（えなみさるがくはっしょうのち えなみじょうあとでんしょうちのひ）

所在地 野江4丁目1番(榎並小学校東門前)
地図座標 C-4

榎並猿楽は、鎌倉時代末期に丹波猿楽の新座としてこのあたりに座を構え、一時は本座をしのぐ勢いでした。しかし、応永31(1424)年には丹波猿楽の楽頭職を大和猿楽の観世に譲り渡し、榎並の地が応仁の乱の影響を受けたこともあり次第に衰退、天文年間には廃滅していたと思われます。

榎並城は、小さいながら東成郡随一の要衝であったといわれています。天文17(1548)年、細川晴元の打倒をめざす三好長慶は、晴元方に属し、榎並城を居城としていた三好政長と、その子政勝を攻撃し、翌年政長は戦死、晴元の軍は敗れ榎並城も陥落しました。

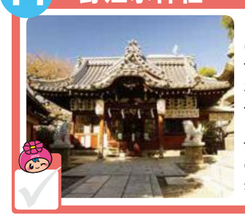
13 榎並講（えなみこう）

所在地 野江3丁目5番28号
地図座標 C-5

旧榎並村(現在の野江、関目、内代)の大峯山まいり有志により、昭和8(1933)年7月に建てられたものです。石像の不動明王、役行者は大変立派で威厳があり、付近の人達により今も手厚く祀られています。現在、大峯山で修行する「榎並講」はありませんが、戦前は非常に盛んで、特に13歳になった男子が村人に連れられて初めて山行する行の中で、断崖絶壁に逆さまに宙づりになって行う"人生に対する誓い"は青年への通過儀式でもありました。

14 野江水神社（のえすいじんじゃ）

所在地 野江4丁目1番39号
地図座標 C-4



水波女大神(みずはのめのおおかみ)を祭神とし、一般には水神社・水神さま・水神宮・野江神社などと呼ばれています。伝えられるところによれば、三好政長が榎並城を築く際、たびたび水害を被ったので、水火除難の守護神として城内に小さい祠を造営し、祀ったのが起源といわれています。

現在の社殿は明治16(1883)年に造営されましたが、明治18(1885)年の大洪水で社殿が倒壊し、明治21(1888)年に修築、その後たびたびの修築が行われ、今日に至ります。

都市景観資源

15 野江水流地蔵尊（のえすいりゅうじぞうそん）

所在地 野江4丁目1番39号
地図座標 C-4

明治18(1885)年、未曾有の大洪水が大阪北部一帯を襲った際に、当地に流れ着いたと伝わるお地蔵さんで、忘れてはならない出来事の証人として、地元町会の人達に大切に守られています。

普段はお堂の扉は閉じられていますが、毎年8月に行われる地蔵盆では扉が開かれ、お堂の前はたくさんの提灯で飾られます。

都市景観資源

16 空襲による遭難者供養の碑（くうしゅうによるそうなんしゃくようのひ）

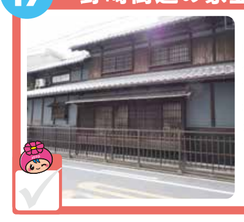
所在地 新喜多1丁目(京橋駅前)
地図座標 B-8

終戦前日の昭和20(1945)年8月14日、アメリカの戦略爆撃機B29の編隊が飛来し、現在の中央区・都島区・東成区にある軍事施設及び大阪城周辺にあった大阪陸軍造兵廠に爆弾を投下しました。そのとき、城東線(現在のJR環状線)京橋駅にも爆弾が落ち、乗降客をはじめ駅の近辺で200名以上(実際には500名とも600名ともいわれる)の尊い命が犠牲になりました。

このときの犠牲者の慰霊と平和を祈念して供養の碑が建てられました。その後、昭和59(1984)年8月に釈迦牟尼仏像(しゃかむにぶつぞう)と平和祈念像が建立されました。

17 野崎街道の家並み（のざきかいどうのいえな）

所在地 蒲生4丁目1～3番
地図座標 E-8



野崎街道は、通称「野崎の観音さん」で知られる曹洞宗福聚山慈眼寺(そうとうしゅうふくじゅさんじげんじ)(大東市野崎)へ参詣するルートです。野崎参りは17世紀後半の延宝(1673～1681年)・元禄(1688～1704年)に始まり、明治の末頃まで大坂の町や近郷から行楽を兼ねてお参りをする人々で賑わいました。今でも旧街道沿いに、古い伝統的な家屋が残っており、かつての街道筋だった面影が残っています。

都市景観資源

18 蒲生行者講（がもうぎょうじゃこう）

所在地 蒲生4丁目10番24号
地図座標 E-8

お散歩が楽しみだね。

蒲生行者講は、三百余年の間、蒲生村民の安全と繁栄を念じてきました。奈良県にある大峯山上の行場で厳しい修行を終えて下山してきた人に、体をまたいでもらうと強くなるというので、人々は、道に横たわってまたいでもらったそうです。

都市景観資源

19 若宮八幡大神宮（わかみやはちまんだいじんぐう）

所在地 蒲生4丁目3番16号
地図座標 E-8

若宮八幡大神(わかみやはちまんおおおみかみ)≪仁徳天皇≫を祭神とする神社で、創建年月は定かではありません。社地は、昔から村内の小さな丘にあって、楠や榎などの大木がうっそうと繁り、昼なお暗い感があったと伝えられています。中でも楠の老大樹は、明治18(1885)年まで神木として崇敬されていました。境内にあるクスノキやムクノキなど11本の樹木が、平成9(1997)年10月31日大阪市保存樹林に指定されました。大坂冬の陣のとき徳川方の佐竹義宣が境内に陣を張り、戦勝祈願したといわれています。現在の社殿は昭和12(1937)年に建立されたものです。

都市景観資源

20 蒲生四丁目周辺の再生された古民家のある町角（がもうよんちょうめしゅうへんのさいせいされたこみんかのまちかど）

所在地 蒲生四丁目周辺
地図座標 E-8

「がもよん」の愛称で親しまれる蒲生四丁目周辺のエリア。一般社団法人「がもよんにぎわいプロジェクト」が、開業した昭和の商店や古民家などの空き家を事業用店舗に再生する事業を推進しています。平成20(2008)年6月、老朽化した米蔵をイタリアンレストランへ再生したことからスタートし、「がもよんばる」などの飲食イベントを定期的に開催し、店舗運営を継続できる環境づくりと飲食店同士が支え合いながら、地域の魅力を押し上げる仕組みを積み上げてきました。

都市景観資源

21 三郷橋の丸木舟出土跡と祠（さんごうばしのまるきぶねしゅつどあとほこら）

所在地 今福西1丁目14番
地図座標 F-8

今は埋め立てられている鯰江川に三郷橋(今福西1丁目)が架かっていました。大正6(1917)年5月、今福三郷橋閘門樋の工事のとき、地下5.5mの川底から楠の大木をくりぬいた丸木舟(長さ約13.5m、幅約1.9m)が発見されました。

この舟は、古代にこの地方が一面内海で池や沼が点在していたころに航行していたものと推定されます。その後、大阪城内に展示されていましたが、昭和20(1945)年の空襲で焼失しました。

22 巡航船の船着き場跡（じゅんこうせんのふなつきばあと）

所在地 今福南1丁目1番
地図座標 E-8

江戸時代から明治時代にかけて寝屋川は、大阪の市街と北河内・中河内をつなぐ交通の要路で、今福は茨田地区の「浜」とともにその中継地として栄えたところです。

大正の初期、巡航船は寝屋川の天満橋から片町-鴫野橋-朝日橋を経て、新喜多大橋(今福南1丁目)までを往復し、一時は上流の徳庵まで運行していたこともあります。

昭和初期に市バスが寝屋川北岸の片町・極楽橋間に乗り入れるまで、重要な交通手段として10年余り活躍しました。

今福の船着場は、現在の新喜多大橋と新喜多橋の中ほどにありました。

23 室戸台風遭難学童の碑（むろとたいふうそうなんがくどうのひ）

所在地 今福南1丁目5番(榮照寺内)
地図座標 F-8

昭和9(1934)年9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った台風は、わずか数時間の間に広範な区域にわたって大きな被害をもたらしました。なかでも、鯰江第二尋常小学校(現、聖賢小学校)と鯰江第三尋常小学校(現、今福小学校)では、倒れた校舎の下敷きとなって多くの児童が死傷するという大変痛ましい出来事でした。このとき犠牲となった児童の慰霊のために、榮照寺の境内にこの碑が建てられています。また、今福小学校では昭和56(1981)年(創立50周年時)に、聖賢小学校では平成30(2018)年(創立100周年時)に慰霊碑が建てられました。

24 皇大神宮（こうたいじんぐう）

所在地 今福南2丁目12番31号
地図座標 G-8

皇大神宮は、天照大御神(あまてらすおおみかみ)を祭神とし、広く崇敬され栄えてきた由緒ある神社です。

現在の社殿は、寛保2(1742)年、天保13(1842)年、明治13(1880)年に改修され、昭和7(1932)年に大阪城の設計を手がけた古川重春氏の設計により改築された、桃山様式の風雅な流造の社殿です。

平安時代末期に摂津国今福村が開発された時、同地に天照大御神をお祀りしたのが始まりと伝えられています。

都市景観資源

25 今福の道標（いまふくのどうひょう）

所在地 今福南2丁目12番31号(皇大神宮内)
地図座標 G-8

天保3(1832)年3月に世話方6名により建立されました。

元は、古堤街道(野崎街道)の四辻(今福南1丁目あたり)と呼ばれた交差点の東南角に建っていたもので、野崎詣等交通の要路であったことから道標が建てられたものと考えられます。

また、安政6(1859)年3月に今福村の大峰山登山人等の世話人によって上部に常夜灯が加えられました。道標には、「左り大坂道、右へのさき ならいせ道、當村 山上講」と刻まれています。

26 旧野崎道の跡（石碑）（きゅうのざきみちのあとせきひ）

所在地 今福南2丁目1番
地図座標 G-8

野崎街道は、通称「野崎の観音さん」で知られる曹洞宗福聚山慈眼寺(そうとうしゅうふくじゅさんじげんじ)(大東市野崎)へ参詣するルートです。

当時、大坂から今福・徳庵を経ての野崎参りは、屋形舟で鯰江川や寝屋川をさかのぼり住道で舟を降りて観音様まで歩いて行くか、寝屋川の堤をてくてくと歩いていくかのどちらかでした。

二つの野崎道が出会う三叉路の今福小学校の西南角に石碑が建っています。

27 新喜多新田会所跡（しきたしんでんかいしょあと）

所在地 新喜多東1丁目8番40号付近
地図座標 F-8

新喜多新田を経営するための中心となる会所の建物があったところです。もともとこのあたりに旧大和川が流れていましたが、宝永元(1704)年に付け替え工事が行われ、柏原あたりからまっすぐ西に向かい、大阪湾に流れ込む現在の姿になりました。京橋あたりから東大阪市域に及ぶ大変広い新田で、周りの湿地や沼地が次々に水田となり、この辺りが開けていくきっかけとなりました。旧大和川の下流を鴻池新十郎、鴻池喜七、今木屋多兵衛の三人が開墾し、その名前の一字ずつを取って新喜多新田と名づけられました。

28 鴫野古戦場碑（しぎのこせんじょうひ）

所在地 鴫野東3丁目16番41号(城東小学校内)
地図座標 F-10

大坂冬の陣で有名な鴫野・今福の合戦は、この付近一帯を主戦場としました。当時このあたりは、旧大和川の支流が分流していて、湿地帯や水田が多く戦闘には不向きでした。慶長19(1614)年11月26日未明、この辺りを防御していた大坂方の軍勢を徳川方の佐竹義宣・上杉景勝および6,500人の軍勢が攻撃。戦いは双方の銃撃戦となり、合間に堤防上での激しい遭遇戦があり、一進一退を繰り返しました。このとき、援軍に来た木村重成や後藤基次(又兵衛)の軍勢との乱戦の末、徳川方がこれを破ったと伝えられています。

29 八剱神社（やつるぎじんじゃ）

所在地 鴫野東3丁目31番8号
地図座標 F-10

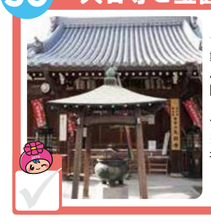
応永3(1396)年の創祀と伝えられ、八剱大明神・武速須佐雄大神(たけはやすさのおのおおかみ)・岡象女大神(みづはのめのおおかみ)を祭神としています。

大坂冬の陣「鴫野・今福の戦い」では、八剱神社の鎮座する鴫野村に徳川方の上杉景勝が布陣しました。大坂夏の陣での落城後、徳川幕府により新たな大坂城の再築が始められ、鴫野村は各地から運ばれた石材の集積場となり、八剱神社の石垣はこの石材を転用したものとみられ、いくつかの石で確認される刻印は、今の大坂城の石垣に見られる刻印と特徴が共通しています。刻印とは石垣築造の過程で彫られた符号で、今の私たちに大坂城をめぐる興亡の歴史、築城にたずさわった人たちの息づかいを伝えてくれています。

都市景観資源

30 大日寺と宝篋印塔（だいにちじ ほうきょういんとう）

所在地 鴫野東3丁目31番17号
地図座標 F-10



弘仁年間(810～824年)に弘法大師が創建されたと伝えられています。ご本尊の大日如来は、「摂陽群談」にも弘法大師手造りの像と記載されています。本堂には大日如来のほか、如意輪観音(にょいりんかんのん)、不動明王(ふどうみょうおう)や釈迦如来(しゃかにょらい)、阿弥陀如来(あみだにょらい)などの優れた仏像が安置されています。

境内には小ぶりながら大坂冬の陣時代よりさらに古い時代のものではないかといわれる宝篋印塔もあります。

※宝篋印塔とは、経文を納める塔のことで、中国の北宋時代初期に造られるようになりました。我が国では平安時代末から、主に石造りで供養塔、墓碑塔として建てられました。

都市景観資源

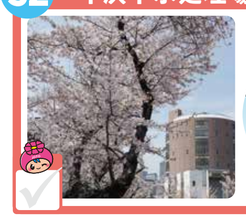
31 八坂神社（やさかじんじゃ）

所在地 天王田10番19号
地図座標 G-10

素戔嗚尊(すさのおのみこと)をお祀りしています。大正2(1913)年10月14日に永田村の水神社(現在永田4丁目蓮乗寺の一部)とともに八剱神社に合祀されるまで、天王田の氏神様でした。合祀されたあと神社の跡地は長い間荒れ放題でしたが、昭和55(1980)年に天王田地区の人々の強い懇願と協力により元の場所に再建されました。また境内にはお稲荷さん「稲秀大明神」が祀られています。

32 中浜下水処理場の桜（なかはまげすいしょりじょうのさくら）

所在地 中浜1丁目17番
地図座標 E-11



お花見が楽しみだね。

中浜下水処理場は、大阪市で3番目の下水処理場として昭和35(1960)年に通水しました。場内に整備された「中浜せせらぎの里」周辺には、約300本の桜並木が毎年春に見事な桜のトンネルを作り、多くの人々の目を楽しませています。

都市景観資源

33 大阪砲兵工廠跡の石碑（おおさかほうへいこうしょうあとせきひ）

所在地 森之宮1丁目
地図座標 C-13

現在の大阪城公園、大阪ビジネスパーク、UR森之宮団地一帯は、戦時中まで大阪陸軍造兵廠でした。このあたりには巨大な兵器工場が建ち並び、大勢の人が働いていましたが、終戦前日の昭和20(1945)年8月14日の空襲で、完全に破壊されてしまいました。

その後、この一帯には多くの住宅や施設が建ち、当時の面影を知るよしもありませんが、この石碑はUR森之宮団地内に建立されています。

34 白山神社（しらやまじんじゃ）

所在地 中浜2丁目3番15号
地図座標 D-12

菊理媛神(くくりひめのかみ)を祭神としています。創建年月は不詳ですが、明治5(1872)年までは、白山権現と称していました。

応永(15世紀初頭)の頃までは中浜・鴫野・森の諸村の氏神でした。天正4(1576)年織田信長が石山本願寺を攻撃した時、社殿を焼失し、慶長8(1603)年豊臣秀頼により再建されましたが、慶長19(1614)年大坂冬の陣による兵火で再び焼失しました。元和3(1617)年に再建され、その後も幾度かの改築・修理が加えられ現在に至っています。

また、神社の境内にある「いちょう」の木は、大阪府の天然記念物に指定されています。

都市景観資源

35 東本稲荷神社（とうほんいなりじんじゃ）

所在地 中浜3丁目18番11号
地図座標 D-13

宇迦之御魂大神(うかのみたまのおおかみ)を祭神とし、衣食住の神様、商売繁盛の神様として知られています。

天正4(1576)年の兵乱で神殿を焼失しましたが、慶長8(1603)年に豊臣秀頼により再建されました。しかし、元和元(1615)年の戦乱で再び焼失し、その後、江戸時代に大坂城代阿部備中守正次が再建しましたが、明治18(1885)年の大洪水により流失、有志の協力により小祠を建てたものの荒廃し、昭和3(1928)年に境内地を拡張して神殿を再建し、今日に至っています。

かつて、毎月8日の夜店は大いににぎわったそうです。

都市景観資源

36 蓮乗寺と鳴かずの蛙（れんじょうじとなかずのかえる）

所在地 永田4丁目4番7号
地図座標 H-13

応仁2(1468)年に蓮如上人が叡福寺(南河内郡太子町)に参詣する途中、永田村の宮木久兵衛方に立ち寄り、その庭先の石に腰掛けて村人に説法されました。その後、上人の説法が数年に及び、信者の願いによって草庵を建立したのが蓮乗寺のはじまりとのことです。縁起によれば蓮如上人が説法されるとき、池の蛙が鳴くのをやめて上人の教えに聞き入ったとされています。

今でも蛙が鳴くのをやめたという不鳴池(なかずのいけ)や、上人が腰を掛けたという腰掛け石など、当時をしのばせるものが残っています。

37 諏訪2丁目の大いちょう（すわちょうめのおおい）

所在地 諏訪2丁目11番8号
地図座標 I-12

大阪市指定<昭和43(1968)年10月1日>の保存樹で、高さ16.5メートル、幹まわり3.3メートルに達します。

宅地内にありますが、樹高が高いことから遠くから眺められ、落葉の季節には、道一面に黄色いじゅうたんが敷きつめられたように美しくなります。幹まわりから見ても、かなりの樹齢であると推察され、この地域のシンボル的存在です。

都市景観資源

38 させん堂不動寺（とうふどうじ）

所在地 諏訪2丁目13番5号
地図座標 J-12

不動明王を本尊とする真言宗の寺院です。豊臣秀吉が大坂城を築城した時、現在の生國玉神社のあたりにあった不動堂は取り壊され、慶長7(1602)年に東成郡木野村に再建されましたが、その後水害に見舞われ、宝暦9(1759)年に現在の場所へ移されました。

江戸時代の書物「摂津名所図会」に「左専道不動尊」として描かれ、日々参拝の人が絶えなかったと伝わります。現在は大阪四不動尊詣の「東方不動尊」として、東方を担っています。

都市景観資源

39 左専道小学発祥の地（石碑）（させんどうしょうがくはっしょうのちせきひ）

所在地 諏訪2丁目13番
地図座標 J-12

名所巡りを楽しもう!

明治8(1875)年に左専道・永田両村の組合立の小学校として、この地に創立されました。その後、合併し北新開荘尋常小学校となり、分離・改称を経て、今の城東小学校、諏訪小学校、鴫野小学校に至ります。「発祥の地」石碑は、させん堂不動寺の門の横に立っています。

40 諏訪神社（すわじんじゃ）

所在地 諏訪2丁目15番16号
地図座標 J-12

長野県にある諏訪大社の、全国に5千ある分社のひとつで、創建の年代は不明です。建御名方刀美命(たけみなかたとみのみこと)と八坂刀売命(やさかとめのみこと)を祭神としています。延喜元(901)年、菅原道真が筑紫への左遷される時に当社に立ち寄り休憩したと伝えられています。

豊臣秀吉が奉納したと伝えられる獅子は雌雄一対で、雄を「白豊号」、雌を「白雲号」と称していましたが、明治18(1885)年の大洪水で雄獅子は流出し、現在は雌獅子(大阪市指定文化財)のみが保存されています。

都市景観資源